

映画『同胞』との出会いは私の宝物

同胞塾 主宰

工藤金子さん

クドウ・カネコ 65歳 向村



昭和23年生まれ。昭和50年に公開された映画「同胞」に自身も出演。その後も山田洋次監督らと親交を深め、平成15年には自宅に資料展「同胞塾」を開設。作品の魅力をも今に伝える。O型のおとめ座

昭和50年、旧松尾村を舞台に制作された映画『同胞』が全国公開されました。それから28年後の平成15年2月、工藤金子さんは、自費でリフォームした自宅2階に映画資料を展示した『同胞塾』を開設。「思い出の写真やサインなどが散在していくのに耐えられず、何とか守らなくては」という一心でした」と、当時を振り返ります。

現在でも、『同胞塾』の名付け親・山田洋次監督をはじめ、出演した倍賞千恵子さん、寺尾聰さん、映画関係者らとの交流が続き、年賀状のやりとりはもちろん、時には電話で話すことも。「私のような一般人がいいのかしらと思いつつ、懐かしさが先に立ち、ついつい友達のように話してしまいます。『同胞』と結



自宅2階の「同胞塾」で資料を手に取る工藤金子さん

婚したみたいですね」と、はにかみます。

そんな工藤さんは『同胞塾』を通じ「もつと視野を広げ、心が豊かになり、夢を語り合えたら幸せ。これからも、全国各地の『同胞』ファンとのネットワークづくりに頑張りたい」と、青春時代そのままに意気込みを語ります。

※「同胞塾」を見学された方は、工藤さんに必ず電話(☎74・3274)連絡の上、訪問してください。見学は無料です。

今月の表紙 みんなが注目。ボールの行方は?

第8回市老人スポーツ大会が7月23日、市総合運動公園多目的運動場で開催され、参加者はさすがの汗を流しました。大会は、地区や地域ごとに4チームに分かれた団体戦。徒競走のほか、特色ある団体競技が行われ、参加者は競技と応援共に全力を出し切りました。結果は次のとおりです。
①大更・寺田②松尾③田頭・平館④安代



若々しい走り

編集後記

旧松尾村を舞台に撮影が行われた映画「同胞」を今回の40周年を記念した感謝祭で初めて観賞しました。感謝祭で山田洋次監督が「40年前の松尾の風景、暮らしがそのままに映っている。精一杯青春していたんだな」ということを皆さんの誇りにしてほしいとおっしゃっていたとおり、心が熱くなる青春映画でした。まだ観ていない方は、ぜひ観賞することをお勧めします。そして、皆さんで語り継いでいきましょう! (佐々木)

※広報はちまんたい8月7日号(No201)の印刷経費は1部46,872円、発行部数は10,400部です。経費の一部は広告料で賄われています。広告掲載については、市役所市長公室(☎・内線1213)まで。

